



水口ばやし水口囃舎代表
野村 和仁さん
(甲南町新治)

37

伝統文化を正しく守り、 正しく継承するために

毎年4月20日に行われる水口曳山祭で、曳山の上で演奏され祭を盛り上げる水口囃子。そのテンポのあるダイナミックな曲調は、全国的にも人気があり、多くの愛好者がいます。

そんな郷土の伝統芸能の「正確な内部への伝承と、外部への伝播」を目的に作られた団体「水口ばやし水口囃舎」代表の野村和仁さん。

「水口囃子は庶民的で、ジャズ調、マンボ調あり、ロックにも通じるものがあり、今も人を引きつけます。時代を越えて感動を味わい、世代を越えて楽しめるところが魅力です。」と話す野村さんは、今年発足10年目を迎える水口囃舎で水口囃子に魅せられた市内外の方とともに毎週練習をされています。はやしはやされの相乗効果が楽しいという皆さんですが、楽しさの中に熱のこもった練習が繰り広げられ、囃子に対する熱意にあふれています。また、全国各地で講習会、公演などの活動もされています。先月にはその講習会などでの謝礼を積み立てた50万円を、文化財保護、伝統文化の保存継承にと市にご寄付いただきました。

「囃子は、その地域の歴史の中ではぐくまれ、受け継がれてきたものです。技術的なことだけでなく、その中にある歴史的、精神的な部分を含めて昔ながらの正しい教え方で伝えていくことが大切だと思います。」と話す野村さん。水口囃子は奥が深くまだまだ新しい発見があるという野村さんですが、甲賀地域唯一の都市型祭礼として水口曳山祭と水口囃子の魅力をもっと広げたいという野村さんの思いは尽きません。



▲楽しく熱い練習風景

理解を深め暮らしを豊かに

～盲ろうサークル「ふれんど」研修会～

盲ろうという重複障がいを持つ人たちの暮らしを少しでも豊かにするため活動される「盲ろうサークル」が3月3日、水口西保育園で研修会を開催、保育士らが盲ろうについて学びました。この日は、はじめに「盲ろう」に関する説明や、盲ろう者の方から体験談などの話があり、盲ろうに関する理解を深めました。また、手話実技では、あいさつなどの基本的な言葉を学んだ後、実際に手話で会話をを行い、いろいろな会話で楽しくコミュニケーションができました。



▲手話で楽しくコミュニケーション

たくさんの思い出と感謝とともに

～市内小・中学校で卒業式～

市内の小・中学校で卒業式が行われ、小学校で979名の児童が、また中学校で1,052名の生徒が学び舎を巣立ちました。卒業式では、校長先生から卒業証書が授与され、思い出一杯の学び舎に別れを告げ、新しく踏み出す一歩への期待に胸を膨らませていました。各小・中学校では、記念になる日をみんなでお祝いしようと、それぞれに趣向を凝らした卒業式が行われたようです。中嶋市長も甲賀中学校と希望ヶ丘小学校の卒業式に出席、子どもたちの旅立ちにお祝いの言葉で花を添えました。



▲希望ヶ丘小学校での卒業証書授与の様子

多彩なジャンルがステージに

～甲賀市文化協会連合会芸能祭～

市内では、文化、芸術の普及、向上を目的に、さまざまな分野で愛好される方が集まり、活発に活動されています。また、団体の交流や活動を推進するため、各地域で文化協会が設立されています。3月9日、あいこが市民ホールで甲賀市文化協会連合会主催による芸能祭が開催され、各地域の協会から3団体、計15団体が日ごろの活動の成果を発表しました。ステージでは多彩なジャンルの芸能が繰り広げられ、熱演される皆さんに、会場からは大きな拍手が贈られました。



▲ステージで熱演される出演者の皆さん

トップアスリートの特別授業

～貴生川小学校～

貴生川小学校で3月9日、北京五輪銅メタリスト、朝原宣治さんら、日本の陸上競技のトップアスリートによる特別授業「キッズアスリートプロジェクト夢の陸上キアラバン隊」が行われました。この日は、朝原さんのほか、走り高跳びの土屋光さん、ハードルの入江幸人さん、十種競技の田中宏昌さんら、いずれも国際大会で活躍されるトップアスリートが来校、一流の技を学びました。授業では、選手によるデモンストレーションの披露の後、「走る・投げる・飛ぶ」の基本を、実演を交えながら楽しく学び、心ができました。朝原さんからは、「みんなの元気にびっくり、元気が一番、何でもやる気を持ってチャレンジしてほしい。」と話されていました。



▲朝原さんから走り方の基本を学ぶ児童

個性あふれる力作揃う

～第5回甲賀市美術展覧会～

第5回甲賀市美術展覧会が、2月27日から3月7日まで、あいこが市民ホールと碧水ホールで開催されました。立体・書・平面・工芸・写真の5部門に、市内外から263点の応募があり、審査により入選した253作品が展示されました。期間中は、力作を見ようと多くの方が訪れました。各部門の甲賀市長賞受賞者は次の皆さんです。

- (敬称略) 立体 中野武志 「進化の剣」
- 書 藤田真紅 「李昌祺詩」
- 平面 占部隆弘 「かすり橋」
- 工芸 杉村大樹 「炎の紋」
- 写真 上西定雄 「かつく」



▲多彩な作品が並んだ会場

また、2月28日に開催された立体部門ワークショップ「自然の素材で作ろう」では、小中学生が、立体部門の実行委員の指導で、粘土や木切れ、石などを使って、それぞれが自分だけのオブジェを作りました。